

2013年10月17日

東急不動産株式会社
株式会社石勝エクステリア

東急プラザ 表参道原宿 “おもはらの森” 第12回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 「屋上緑化部門 日本経済新聞社賞」を受賞

東急不動産株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:金指潔)が開発を行い、東急不動産SCマネジメント株式会社に運営を行っている東急プラザ 表参道原宿(※1)が、第12回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール「屋上緑化部門 日本経済新聞社賞」を受賞いたしました。



■受賞理由(審査講評より抜粋)

ファッション性の高い交差点の立地条件を活かし、「森」のような外観まで考慮した優れた作品であり、生物多様性保全への配慮、台風対策にも配慮した安全性のための樹木固定技術などへの取り組みが高く評価された。

■特徴的な緑化技術

「東急プラザ 表参道原宿」の緑化に際しては、東急不動産グループの石勝エクステリアと共同で以下3点の特徴的な緑化技術を用いました。

①生物多様性保全に配慮した緑化

地上30m程の屋上に、ケヤキやクスノキなどの高木で骨格を作り、チョウや野鳥が好む実や花をつける植物を周辺に配したほか、中央テーブルの周囲に在来種の山野草約50種を植え、多様な生物空間を創出いたしました。周辺の緑地や、隣接するケヤキ並木と連動し、エコロジカル・ネットワークの中継点となる役割を目指した屋上庭園となっています。

他にも、地域の生き物呼び込む仕掛けとしてバードバスや巣箱を設置するなど、生物多様性保全に配慮を凝らした緑化技術を施しています。



■エコロジカル・ネットワーク

②樹木固定に関する対応

屋上には高木も配しているため、特注規格の地下支柱を設置して根鉢を支えています。また、屋上という特性も考慮し、強風時には樹木同士をワイヤーで連結させるほか、追加でワイヤーを張るなどの転伏防止策を施しています。



■中央テーブル周りの山野草



■強風時の養生ロープ(親綱)掛け

③景観や生態系に配慮した維持管理

枝先を切り詰めず、枝抜きや更新作業により、自然樹形をもとにした剪定を行い豊かな森の景観を演出しています。外壁沿いの樹木は、倒木や落枝に配慮し風圧を減らす「透かし剪定」を行い、中央側の樹木は野鳥が休憩しやすいよう、葉量を多めに管理しています。

生態系への配慮として、農薬の使用を必要最低限に留め、IPM(総合的病害虫管理)の手法を取り入れたり、有機質の堆肥や肥料を用いて持続可能な土壌環境を整備するなどの工夫をいたしました。



■透かし剪定 作業前



■透かし剪定 作業後

※1 東急不動産グループ組成SPCが準共有持分25%、アクティビア・プロパティーズ投資法人が75%を保有